

創立第三年 大正九年

一月

十日 三八式騎銃百挺(屬品共)三十年式銃劍貳百挺
第十三師團兵器部に配賦を受く

八月

十日 軍令陸五第八號ヲ以テ當隊平時編制中九ノ
通り改正セラル

大隊水部ニ少尉一ヲ追加。

火工掛ノ分課及准尉ヲ削除セラル

火工長ニ電工長一ヲ増加セラル

准尉ハ少尉ニ任官ス

從來對馬警備隊司令部對馬警備隊步兵大
隊及重砲兵大隊以テ對馬警備隊ヲ成セシメ

對馬警備隊司令部、對馬要塞司令部ト改稱セラレ、對馬警備隊步兵大隊ハ、廢止セラレ、結界對馬警備隊ノ稱號ヲモ廢止セラレ、又編制改正之際、對馬要塞司令部官別紙ノ通り訓示セラル（別紙附録綴ニ保存ス）

九月、十月

二十一日

大隊附少佐小山安吉以下二百五十二名自九月

二十一日（二十一日新浜港出帆）十月十日迄（十月八日廣島開拔）

廣島附近ニ於テ施行、大正九年特別重砲兵

演習ニ參加ス、但當隊編成ニ部隊、攻城軍砲兵

第一隊、第二大隊本部及第三中隊、第四中隊、本部

（資料ハ下出シ）
（兵隊六〇名、看護卒一〇名）トス

十二月

一日 編制改正ニ依リ 鷄知重砲兵大隊ト改稱

充記ノ通り編制ヲ改正セラル

大正九年十月一日大隊長大(連)佐一ヲ中佐一ニ改正

大隊本部ニ少佐一増加

中尉一ヲ大(連)尉一ニ從テ大隊副官ハ

大(連)尉トナリ

大隊本部附軍曹内一名ニ曹長ヲ以テ充ツルコトヲ

得ル如ク改正セラル

2. 中隊附軍曹、伍長(三)中隊通シ三名増加

全(隊)伍長勤務上等兵各中隊各四名ヲ以テ各三名

ニ改正

一(三)等卒三〇名増加

(二)大正十年十月一日中隊附軍曹伍長(三中隊ヲ通シ)三

名増加

一(三)等卒三〇名増加

(三)大正十一年十一月一日一等主計一(一三)等主計一(改正

全 馬七頭ヲ増加(保管馬)但算與後日

大正九年將校同相當官准士官職員表

轉出

轉入

四月 下関重砲隊附 九日 歩兵大隊 七隊 歩兵第廿七 隊	岩間義男	四月 下関重砲隊附 九日 歩兵大隊 七隊 歩兵第廿七 隊	江口太郎
八月 下関重砲隊 十日 歩兵大隊 野砲大隊 歩兵第廿七 隊	中島鐵也	八月 下関重砲隊 十日 歩兵大隊 野砲大隊 歩兵第廿七 隊	高橋三郎
十月 野砲大隊 野砲大隊 野砲大隊	齋藤太郎	十月 野砲大隊 野砲大隊 野砲大隊	小山鉄郎
十一月 野砲大隊 野砲大隊 野砲大隊	榎本小右門	十一月 野砲大隊 野砲大隊 野砲大隊	藤田助
十二月 野砲大隊 野砲大隊 野砲大隊	吉田甚平	十二月 野砲大隊 野砲大隊 野砲大隊	森島兵衛
一月 野砲大隊 野砲大隊 野砲大隊	井元徳松	一月 野砲大隊 野砲大隊 野砲大隊	稻葉盛
二月 野砲大隊 野砲大隊 野砲大隊	寺園次郎吉	二月 野砲大隊 野砲大隊 野砲大隊	村清一郎
三月 野砲大隊 野砲大隊 野砲大隊	加賀山 茂	三月 野砲大隊 野砲大隊 野砲大隊	

十月
三日
八月
十日

轉

職

免水職補對馬重砲兵大隊中隊長
免水職對馬重砲兵大隊中隊長職心得仰付
免水職補對馬重砲兵大隊中隊長

砲兵尉
砲兵尉
砲兵尉

西城良吾
竹本 節
山田耕一



大正九年赤職員表

大隊本部 第一中隊 第二中隊 第三中隊

大隊長 藤沼章六 長 山田耕一 長 竹水節 長 西城良吉

中尉 山田政次 中尉 稻葉盛 中尉 増茂健吉 中尉 江口太郎

少佐 小山安吉 少尉 藪伊壽郎 少尉 石黒豊治 少尉 江頭昇三

高橋三郎 少尉 坂元林兵衛 特務 森萬兵衛 中尉 中馬園哉

大尉 小山鉄郎 特務 財前利策 特務 池藤円助

一等 小川源太郎

二等 依藤日雲

三等 村田清一郎

編制改正ニ際シ對馬重砲兵大隊各員ニ與フル訓示

今般國運ノ發展ニ伴ヒ對馬警備隊ノ廢止ヲ令セラレ新ニ對馬
要塞司令部ヲ設置セシメラル明治三十二年當大隊ノ始メテ設ケラ
レシヨリ警備隊トシテ隸屬關係ニアルコト實ニ十有余年其間
大隊將卒ノ拮据精勵ニ依リ能ク其重任ヲ全フシ特ニ日露、日
獨ノ戰役ニ當リテハ本島守備ノ重任ニ當リ或ハ特別部隊ヲ
編成シテ占領地ノ守備ニ任シ國防上遺憾ナカラシメタリ甬
來將校以下奮勵努力益々大隊ノ武威ヲ向上シ海峽ノ守
備益々堅キヲ加フ今ヤ國運ノ發展ニ伴ヒ對馬警備隊ノ廢
止ヲ令セラレ平時ニ於ケル隸屬ノ關係ヲ絶ツニ至シリ吾人ノ胸
中亦感慨禁スヘカラサルモノアリ

方今宇内ノ大勢混沌トシテ停止スル處ヲ知ラス國防ノ完
備愈々重キヲ加フルヲ想ハシム諸士ハ宜シク思フ國家ノ前

途ニ趨セ一誠以テ奉公ノ義ヲ致シ日夜拮据勉勵軍務ニ
精勵之國軍ノ發展皇威ノ發揚上遺憾ナキヲ期スヘシ終ニ
臨之將校以下ノ前途ヲ祝福シ其ノ健在ヲ祈ル

大正九年八月十一日

對馬要塞司令官陸軍少將西原茂太郎